

国道33号のGWにおける渋滞緩和に向けた取り組み

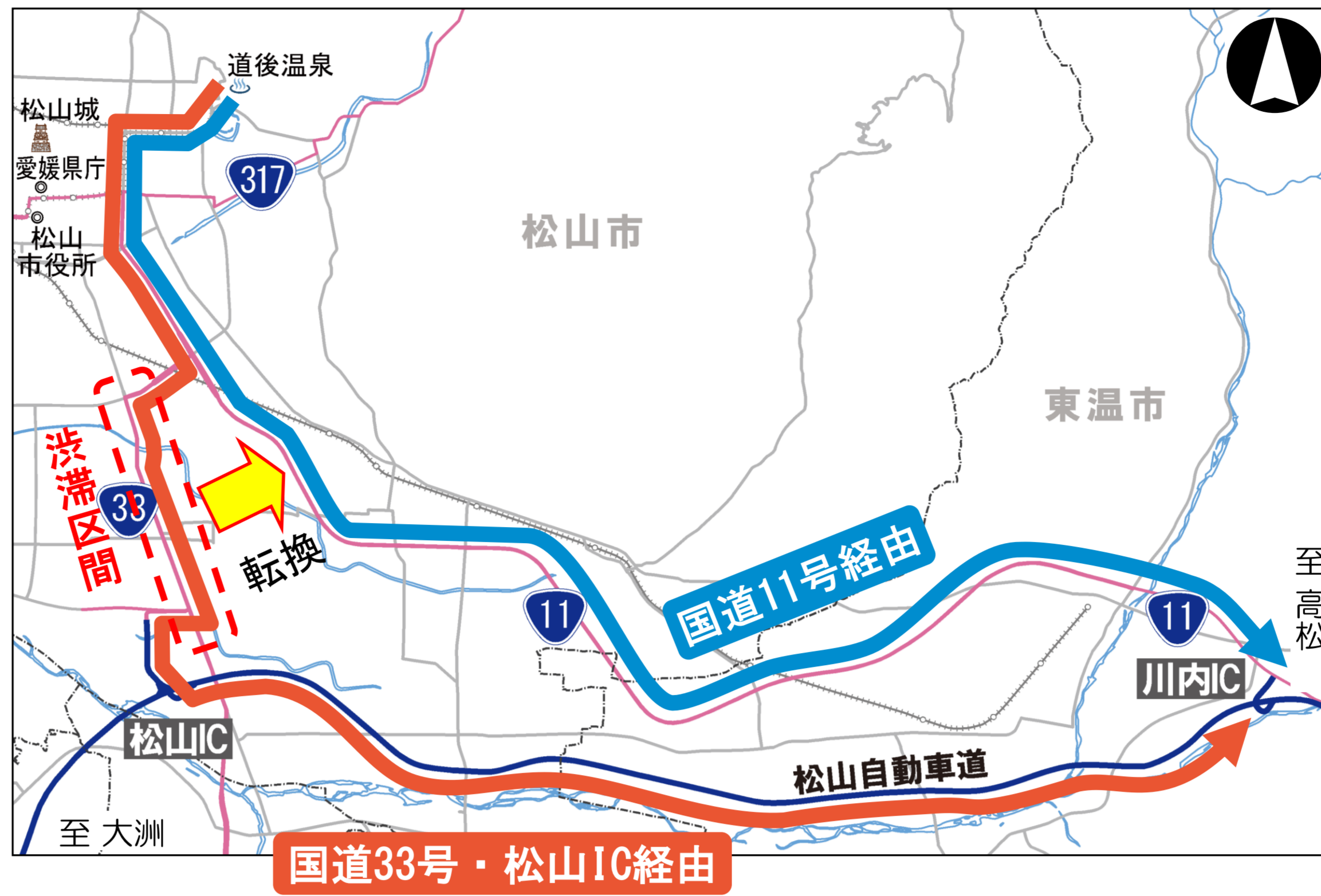
国土交通省四国地方整備局 松山河川国道事務所計画課 高井 健一

1. 背景と目的

- 背景**
- ◇国道33号は観光交通で著しく渋滞。原因となる松山IC利用交通の分散が必要
 - ◇松山市中心部から高松方面へは、国道11号経由が早い時間帯あり

- 目的**
- GW中の国道33号の渋滞緩和を目的に、国道33号から国道11号への経路誘導を促す情報提供を実施

●プロジェクト位置図

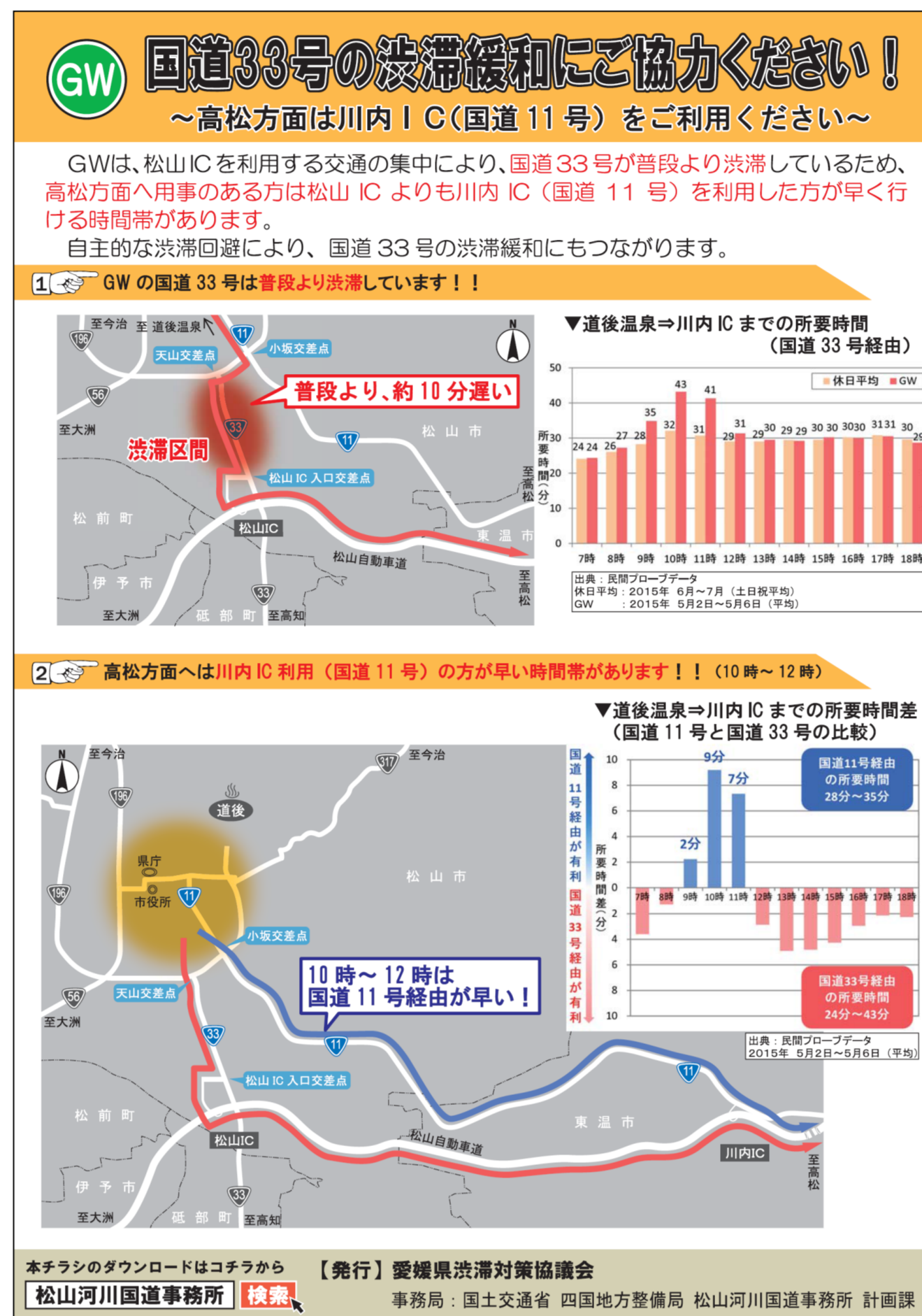


2. 取り組み内容

4/25～5/8の期間に、国道11号・川内ICを利用することで国道33号・松山IC経由に比べ所要時間が短縮できる情報を提供

- ◇チラシ・ポスター：松山市内中心部で約4万部、来訪者に道後温泉等で配布、松山河川国道事務所HP上に掲載
- ◇横断幕・路上看板・電光掲示板
- ◇アンケート・ヒアリング調査、交通量調査、実走行調査：国道11号への経路誘導の効果検証

●チラシ・ポスター



●横断幕



●電光掲示板



●路上看板



3. 効果

- ◇国道33号の利用割合が昨年に比べ、約1割減少(図1)
- ◇国道11号経由の方は、国道33号経由に比べ、道後から川内ICまでの所要時間が最大約30分短縮(図2)
- ◇松山IC利用予定者のうち、約3割が川内ICへ転換(図3)
- ◇情報提供により、約8割の人が「川内ICを利用しようと思う」と回答(図4)

●国道33号の利用割合が昨年に比べ、約1割減少

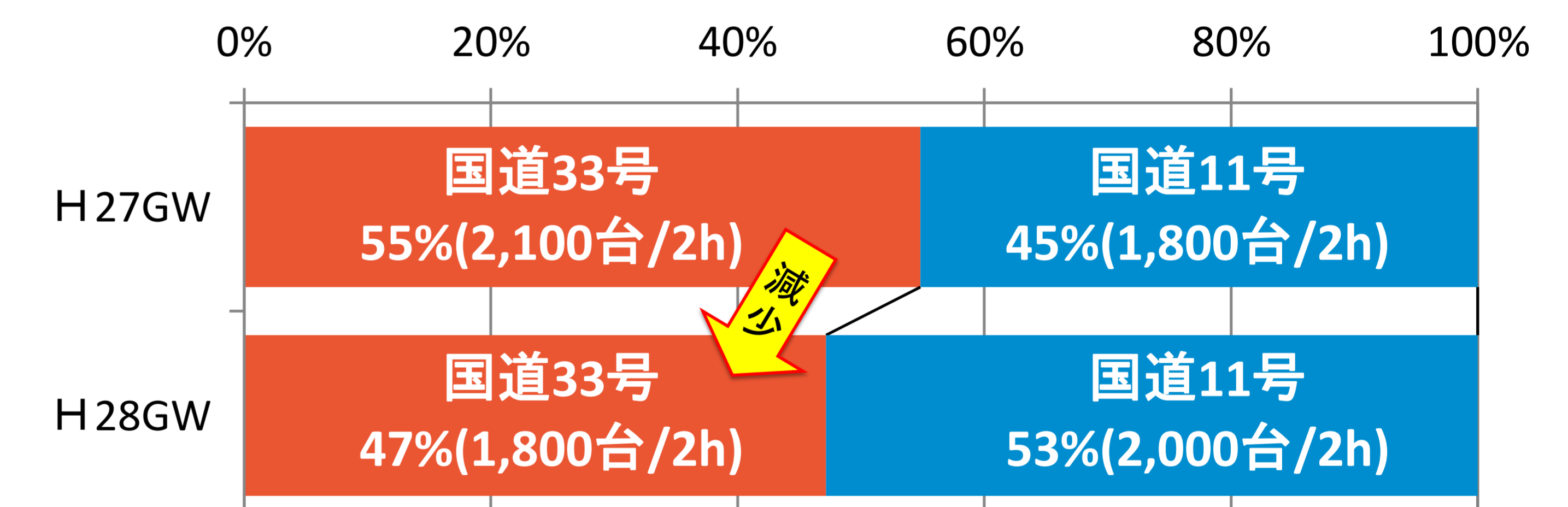


図1 国道33号・国道11号の交通量変化(10時～12時)

●道後から川内ICまでの所要時間が最大約30分短縮

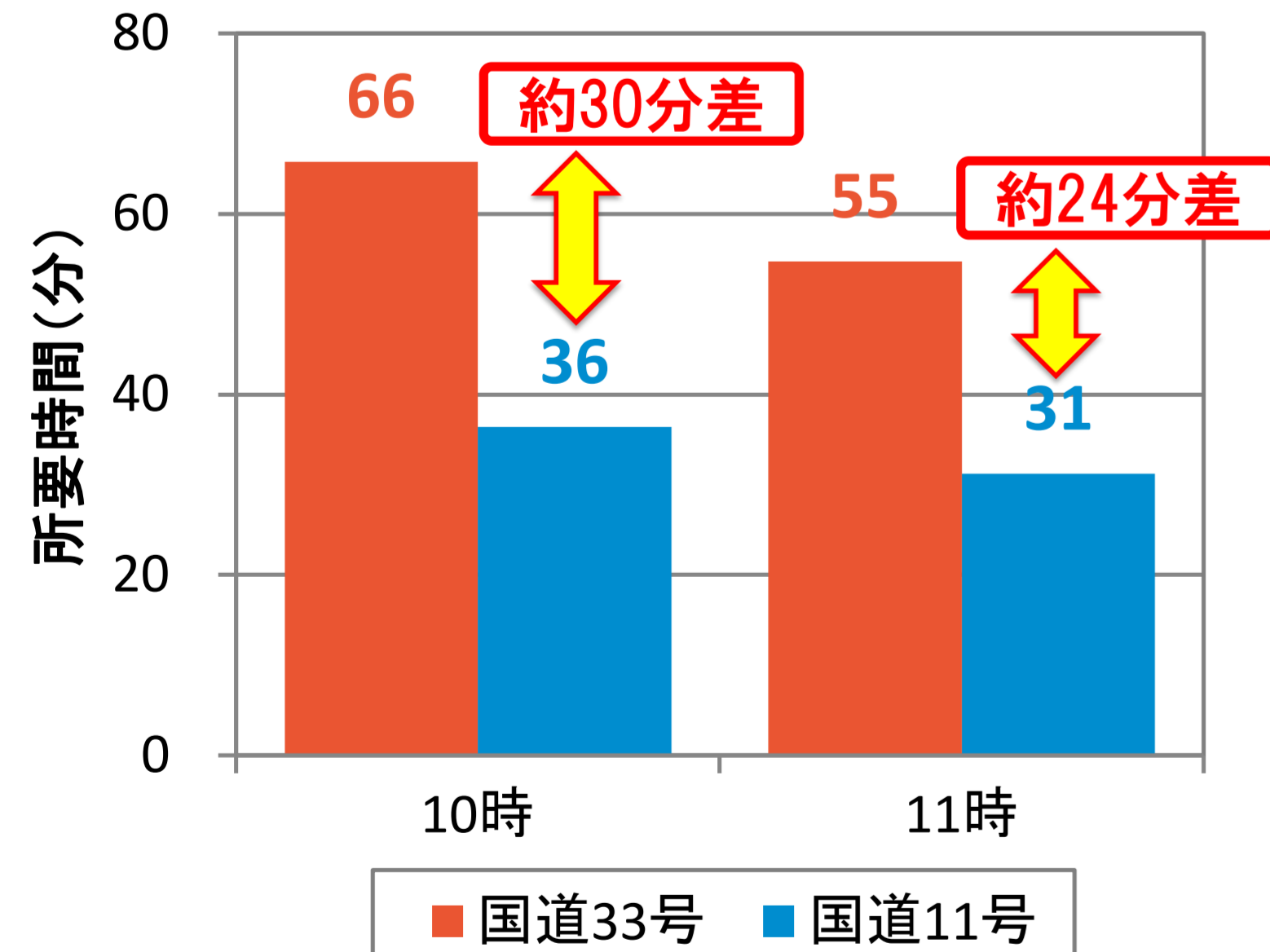


図2 道後から川内ICまでの所要時間の比較



資料：実走行調査結果(平成28年5月4日)

●松山IC利用予定者のうち、約3割が川内ICへ転換

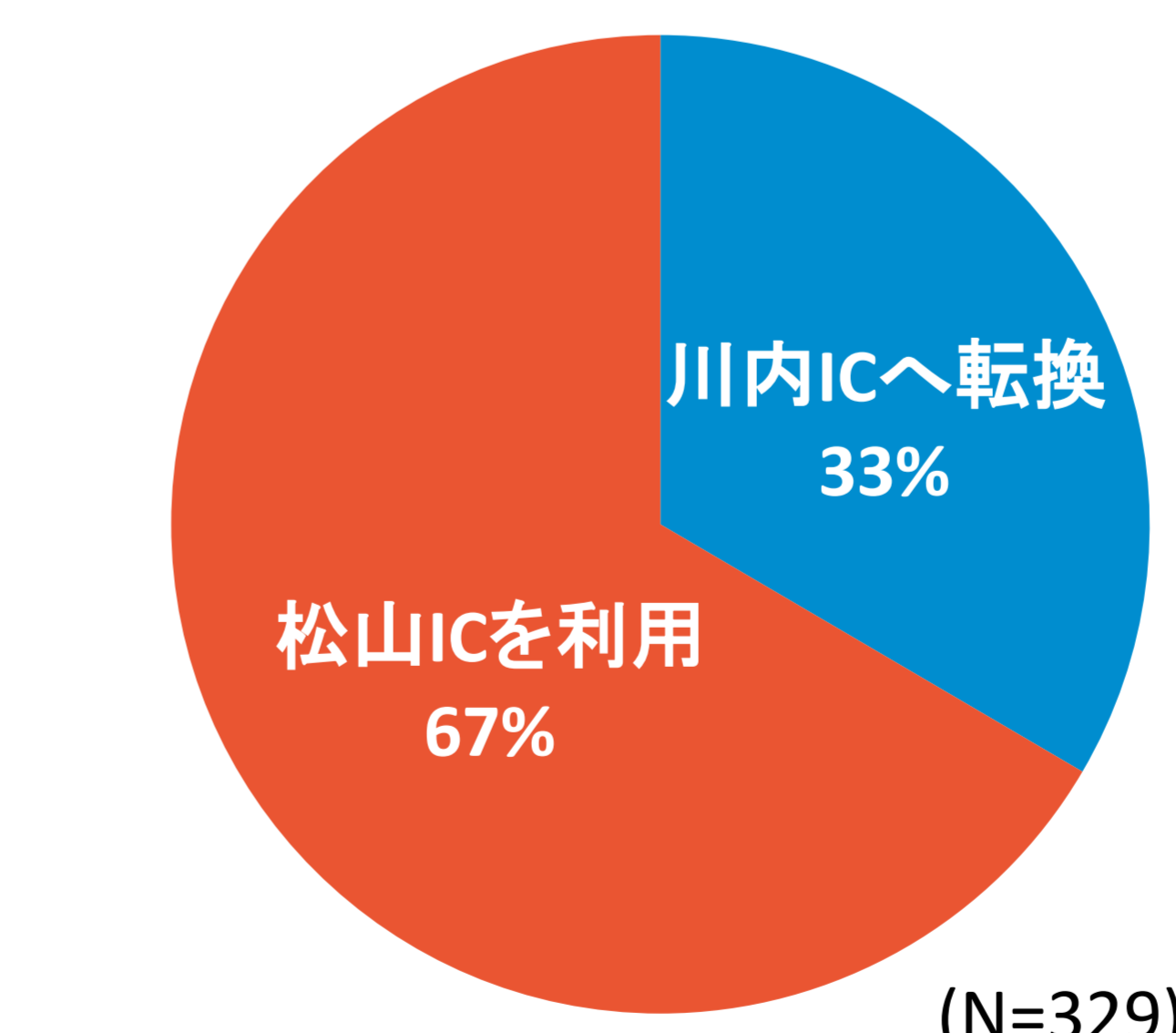


図3 松山IC・川内ICの利用割合

●約8割の人が「川内ICを利用しようと思う」と回答

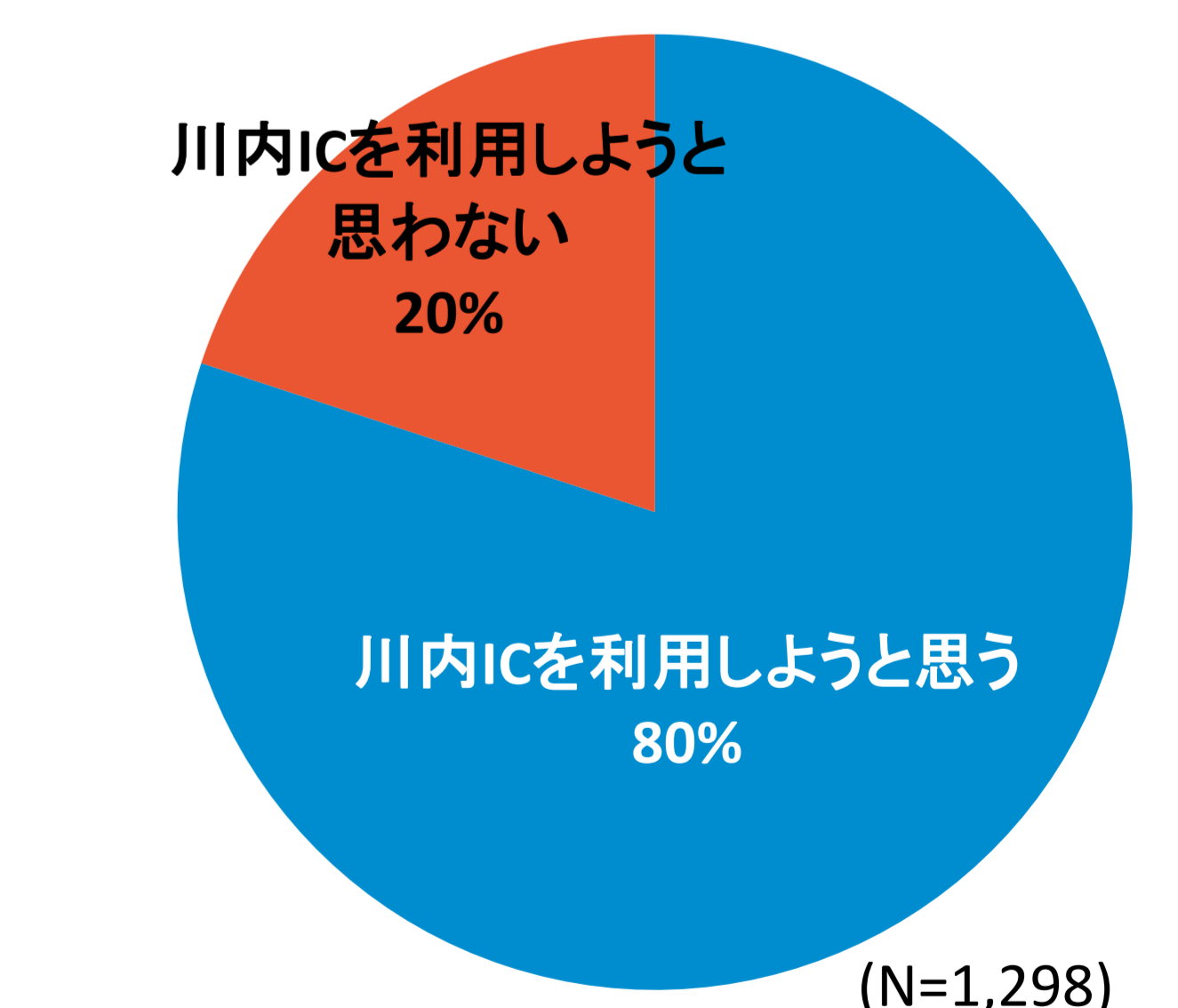


図4 川内ICへの転換意向

資料：H28GWアンケート調査・ヒアリング調査(回収部数は2,070部)

4. まとめ

- ◇「道路を賢く使う」取り組みによる国道33号の渋滞対策として、国道33号・松山IC経由から国道11号・川内IC経由への経路誘導を促す情報提供を実施した結果、国道33号から国道11号に交通が転換し、国道33号の交通量が減少した。
- ◇所要時間情報の提供により、川内ICの利用意向が高まっており、経路誘導を促す情報提供が有効であったと考える。
- ◇今後は、継続的に取り組むために、効率的な広報手法について検討することが重要と考える。
- ◇お盆においても、経路誘導を促す情報提供を実施予定。なお、アンケートでは約8割が川内ICを利用しようと思うと回答。